
俺はサンタになりたい！！

裕理

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺はサンタになりたい！！

【Nコード】

N0664Q

【作者名】

裕理

【あらすじ】

どこにでもいそうな平凡な高校生、河野^{かわの} 京^{きょう}はひよんなことから魔法少女 ではなくサンタクロースの手伝いをする事に、果たして京はサンタクロースとして子供に夢を与えることができるのか。季節はずれ（笑）の小説（ラノベと読む）すたーとです！

弟零回（前書き）

はじめまして、裕理と申します。

初心者ですので表現が下手かもしれませんが、どうか温かい目で見てくださいw

弟零回

君はサンタを信じるかい？

一年に一度クリスマスにやってきて子供たちにプレゼントを配るために世界中をまわるっていうやつ

たいていの子供は信じない、なぜってそりゃ一人で世界中回るのは無理だし家庭によって何歳までくるとかのルールの違いもあるからサンタ＝親って考えるのが普通だろう

でも、中にはサンタを信じる子供もいるそうだが

俺はどうかって？そりゃ信じてなかったさ、だって親父が夜中に俺の枕元にプレゼントおくのを見たからな。

でも今は違う、なぜかってそれは今俺がサンタの候補生だから

弟零回（後書き）

もともと楽天ブログで連載してたのですが、こちらのほうが多くの人の目につくので移転しました。

第一回 知らない人には気をつけよう(前書き)

見ていただき有難うございます。裕理です
前回の続きです。

よろしくお願いします

第一回 知らない人には気をつけよう

俺はなぜこんな暑い中、一人で山登りをしているのだろうか

このままいけば熱中症になると思いつつ俺は朝の出来事を思い出す朝、俺はいつもどおりに起きた。夏休みだが友達に旅行や部活などで忙しいし

特にすることもなかったので俺は商店街に行くことにした。

行ったのはよかったが特に買うものもなく俺は商店街のファミレスで

時間をつぶすことにした。ドリンクバーでねばってはたものやはり飲み物だけでは

限界があった。

「仕方ない帰るか．．」そうつぶやき会計に向かおうとしたところで

「その青年」と声をかけられた。俺は声をかけられたのが自分ではないと思いつつそのまま

会計に向かおうとしたところでＴシャツをつかまれた

「お前のことじゃやー」

そのまま俺は、その声の主に引き込まれ近くの席に座らされてしまった

「なんのようですか」俺は俺の前にいるいかにも怪しい白ひげサングラス略して白ゲラ

のおじいさん？に問いかけた

「お前さん今暇じゃろ」

「とても忙しくて死にそうです（棒読み）」

「それではこれで」といって会計に向かおうとしたところで今度はズボンをつかまれた

「金はやるから頼まれてくれんかの」

「どのくらい」

「まず、依頼をつけて5000円これは今から払うからの次に成功

報酬じゃがこれで

どうじゃ」

そういつて白グラは俺にどこから取り出した電卓をみしてくれた
そこに示されていた金額は

¥1000000 (百万)

「わかった依頼されようじゃないか」

「うむ、物分りがよくて助かる。とても簡単な依頼じゃこの地図に
ある家についてほしいんじゃ」

そういつて白グラは俺に地図をさしだした

「いくだけでいいのか」

「そうじゃ行けばわかる期限は今日の19:00までじゃ健闘を祈
るぞ。あとこれが前金じゃ」

「ありがとよ。じいさんの依頼完遂すれぜ」

「おりがとよ、それじゃあがんばれよ」

そうして白グラは去っていった。

そこから俺は地図をみて歩き今の山登りをしているというわけだ

「ほんとにこの先に家なんかあるのか？つうかこの地図あってんの
か。」そうつぶやき俺は山の頂上を目指した

現時国は17:30期限まであと1時間半ちようどだ

「あともう少しがんばるか」と一人ごとをつぶやき一歩前に踏み出
したときそこには

足場がなかった。

落ちる・・・俺ははそう思い目をつぶった。

第一回 知らない人には気をつけよう(後書き)

つ、疲れましたw

第二回 一次試験合格？（前書き）

はじめまして

なんだかんだで三回目です。

第二回 一次試験合格？

目を覚ますとそこはきれいなお花畑そして流れる川の向こうにきれいなお姉さんが

「京くん、こっちにおいで」

「はい、いまいきま．．．．．」

バシ！

「痛！」

「目は覚めたかの？」

「お前は！」

「うむお前の思っているとおり」

「だれだっけ？それよりここどこ？」

「わしはファミレスでお前さんにここに来るようにつた爺さんで

ここはわしの家じゃ」

「なるほど〜あんときの白グラか」

「白グラとはなんじゃわしにも葉田はだ 又吉またきちって名前があるわい」

「わかったよ爺さん」

「爺さんはよせとっておるじゃろ又吉様と呼ぶのじゃ」

「だれが呼ぶか」

「てか、俺落ちたよな？何で爺さんちにいるんだ？」

と、ふと思つた疑問を爺さんに問いかけてみると

「フツフーふふふつふー」

わざとらしく鼻歌をうたいはじめた

「なぜ俺がおまえの家にいるか聞いているんだが」

「．．．．．zzzzzzzzzz」

「寝るなああああああ」

俺は産まれてはじめての超大音量の叫び声をあげた

「おじい様そろそろわけをお話したほうが」

「おお深月か、すまんこの若造がうるさくて」

深月とよばれた女の子はこちらに一礼し

「葉田^{はた} 深月^{みつき}と申します」

とあいさつをしてくれた。

正直言つてとてもかわいい身長は小柄だが出るところはでてるしなるといつてもあの長い黒髪がなんとも．．．。

「このたびはうちの祖父が迷惑をおかけしてすいません」

「ちなみに俺はなんで葉田さんのお宅にいるんだ」

「それは今日の朝．．．」

といったところで爺さんが

「ここからはわしがせつめいしよう」

「いやあんたには．．．」

正直説明してほしくないと言おうとしたが爺さん勝手に語りだした
「いやな、わしは毎年ある仕事のバイトを探しておったんじやが、
どうも仕事内容を説明するとうけおって

もらえず、毎年深月とふたりで仕事をしておったんじや。じゃがわ
しも年でのあまり動くと腰にひびくんじや

なので今年はバイトを雇おうと決心したんじや。」

「なるほどそしてファミレスであった俺に声をかけたのもそのため
か」

「そうじや」

「まさか、俺に行くだけでいいって言ったのは」

「そう、内容を聞くとバイトしてもらえんからの」

「そっいや100万は」

「タイムオーバーじや」

「くそう」

「ってまでよ！おれは何で爺さんの家にいるのかきいているだが」

「．．．．．zzzz」

「寝るなああああああ」

人生二度目の超大音量の叫び声をあげた

「それは私が説明いたします」

「結論だけいいいますと・・・おじいさまがしかけた落とし穴にあな
たがおちそれをおじいさまがはこんだからです」

おれは爺さんの胸倉をつかんで

「じじい表でろや」

とドスを聞かせていって見たがじいさんは

「zzzzzzzz」

とためき寝入りを続けていた

すると葉田さん（爺さんじゃないほう）が

「すいません、でもここにきた以上」

続いてじいさんが

「お前は今日からわたしの仕事を手伝ってもらうぞ」

「まあ、暇だから別にかまわないが、さっきから気になってたんだ
が仕事ってなんだ」

「よくきいてくれたわい」

「お前さんにやってもらう仕事は子供たちに夢を与える」

「サンタクロースじゃ」

第二回 一次試験合格？（後書き）

たぶん、今日の投稿はこれが最後です。

気がついたのですがこれ。エロゲみたいな書き方ですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0664q/>

俺はサンタになりたい！！

2011年1月15日23時18分発行